

ぜん 全

しん 進

全員で 進もう!



確かな学び通信
2026.4.22

4年生「図書館の達人になろう!」

前回に引き続き、図書館での授業の様子を共有いたします。今回は、4年生の「図書館の達人になろう!」の様子です!

指導目標 ◎ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知(3)才)

言語活動 本の探し方を考えながら学校図書館で本を探す。

評価規準例 ◎ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3才)
◎ 進んで読書に必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づき、これまでの学習をいかして、本の探し方を考えながら学校図書館で本を探そうとしている。

「本は友達」設定の趣旨
「本は友達」は、図書館などの施設の利用に関する知識を扱う系統と、さまざまな観点から「本」「読むこと」「読書」について考える系統の年間2か所（1年は3か所）を設定している。4月の「本は友達」では、学校図書館や公共図書館の利用に関する内容を知り、必要なときに本を探せる技能を身につけることを目的としている。

単元設定の趣旨

指導事項に関わって 図書館で本を探して読んだり、調べたりすることによって、「幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つこと」ができる。活動するときには、目的と何を探したいかを明確にすることが大切となる。調べる方法として、日本十進分類法（NDC）に基づく書架の本の分類や、本のラベルの見方、司書へのきき方、百科事典や図鑑の見方の知識を育みたい。

言語活動に関わって 「好きな作家の本を読みたい」「なりたい職業の仕事内容を知りたい」など、目的に応じた本を探す活動が示されている。児童の実態や興味・関心に応じて、さまざまな目的の設定が考えられる。読書記録の形式も例示されており、これらを参考に読書記録に取り組み、年間を通して継続するようにしたい。

教材・題材に関わって 「図書館の達人になろう」という教材名は、図書館で本を探すことに熟達するという目標を、キャッチーなフレーズに言い換えたものである。児童の学びのスタートにおける意欲づけに活用したい。学校図書館における本の探し方、調べ方の知識をよく理解し、実際に目的や必要に応じて、それらの知識をいかせるかが「達人」へのポイントとなる。児童の関心に寄り添った題材を目的に設定することで、児童が積極的に活動を

単元の位置づけ	
1年	としょかんへ いこう ・学校図書館に行き、マナーを知る。
	としょかんと なかよし ・表紙と題名を手がかりに、読みたい本を見つける。
2年	図書館たんけん ・本の分け方、並べ方を知る。
3年	図書館たんていだん ・日本十進分類法(NDC)類上、学校図書館の設備を把握する。
4年	図書館の達人になろう ・本のラベルや司書の役割について知り、必要な本を探す。
5年	図書館を使いこなそう ・日本十進分類法を活用して本を探す。
6年	公共図書館を活用しよう ・公共図書館や図書館以外の施設を活用して、必要な本や情報を見つける。

知りたい情報を得るために、どんな本を探したらいいのか、体験を通して考えていく活動にしました。子どもたちが「なんか知ってそうで知らない」ようなお題を設定し、情報を得る難しさを感じてもらいました。それぞれのお題がどの棚と関連しているのか予想をたてながら探す姿を想定しました。

また、探すのに行き詰ったところで、百科事典の存在を共有しました。そこから、**百科事典** → **お題に関連する本へとつなげていく**よう促しました。

- 【授業の流れ】**
1. 図書館での本の探し方を出し合う。
(経験を語る)
↓
 2. お題が何かを本を使って調べる。
(どの棚に関連しているか予想)
↓
 3. 調べた結果を班ごとに確認する。
(どんな本を使って探したか共有)
↓
 4. 名前だけでは何か分からない場合、百科事典を頼りにすると便利だということを確認する。

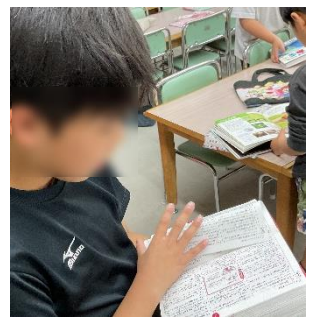
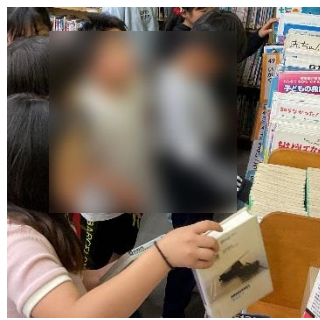
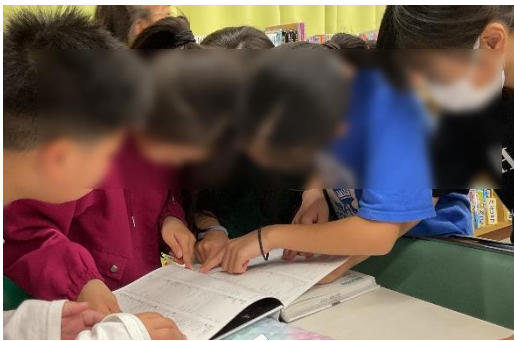
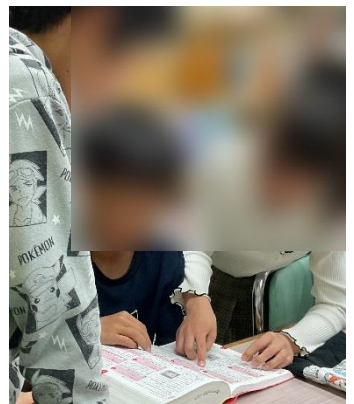
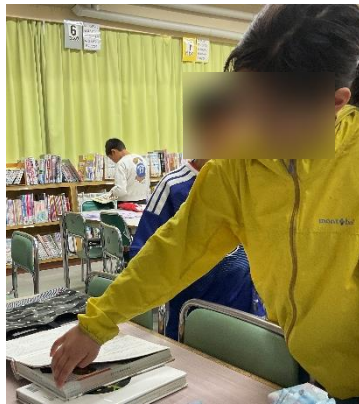
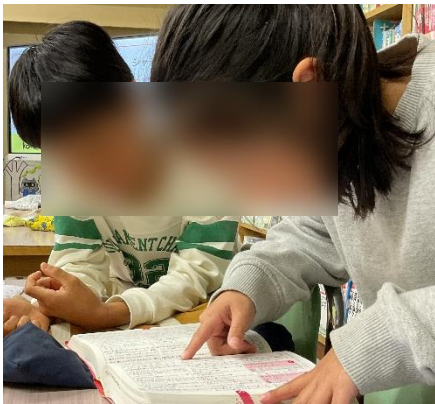
きゅうす	オニカマス	シャモ
ペソ	チャンゴ	さるなし

はんで、さがしてみよう!

まずは百科事典や図かんで調べてみる!



調べたいものの**最初の文字**の巻をえらぼう!



知識や情報を得る方法はさまざまです。知りたい情報を自分がどれだけ知っているかで探し方が変わることを体験してもらいました。4年生の授業づくりでは、「やりたい気持ち」と「困り感」が子どもたちから出てくるように考えました。

まずは、「知りたい」「探してみたい」がうまれる活動の設定です。「なんか知ってそう!」と思い意欲的に調べられるようにお題を設定しました。友だちと協力し、図鑑や国語辞典を使って調べていました。

次に、予想して図鑑などで調べるには限界があり、何で調べたらいいかわからないという「困り感」をうむことです。この困り感が出てくるからこそ、百科事典のよさをより感じる事ができると考えました。「やっと見つかった〜!」「魚じゃなくて鳥やったんや!」「ポプラディアすげ〜!」といった声がたくさん聞こえてきました。

子どもたちの思考の流れを想定して授業づくりする大切さを改めて感じる事ができました!!!

